

第2回

# 元住吉ミュージック・フェスティバル

## 2nd Motosumiyoshi Music Festival



音楽のまちかわさき

### 元住吉、最大の音楽祭。

## 2020年4月11日(土)

### 川崎市国際交流センター・ホール

Motosumiyoshi, the biggest music festival.  
April 11, 2020 (Sat)

Kawasaki International Center / Hall

# 出演者募集

## Looking for Performers!

国籍・プロ・アマチュア問いません。  
ジャンル不問。

和太鼓・大音量のドラム(ヘビーメタルやハードロックなど)は不可。  
2020年4月10日(金)のリハーサルに参加可能な方。

★募集締め切り★  
2019年  
12月31日

参加希望者は、MMF公式ウェブサイトへ→  
運営ボランティアスタッフ同時募集

主催: 音楽好きな友の会/MMF実行委員会/motton club  
特別後援: (公財)川崎市国際交流協会  
後援: 音楽のまち・かわさき推進協議会  
(公財)川崎市生涯学習財団  
(公財)かわさき市民活動センター  
(公財)現代人形劇センター/人形劇団ひとみ座  
(株)タウンニュース社  
かわさきFM(79.1MHz)



mottonclub.com

中に募集要項

MAGAZINE 発行人: 塚田親 スタッフ: 松本泰夫 発行音楽好きな友の会 〒211-0025 中原区木月1-35-1フルッコビル TEL 090-6-828-289 2019-11-16-800 Printing RK

# M MAGAZINE

2019  
12月号  
December

Friends who like the music of Motosumiyoshi

### 音友レコード倶楽部

12月1日(日)13:30~  
元住吉駅側「音友ハウス」  
Light Musc  
軽音楽ファンの集い

### 音友レコード倶楽部

12月15日(日)13:30~  
元住吉駅側「音友ハウス」  
Jazz Dete  
ジャズファンの集い

### ランチタイム

ロビーコンサート  
後藤いちご~歌とギターの間へ~  
12月24日(火)12:10~  
川崎市生涯学習プラザ・ロビー

# NAGASAKI SUSUKU

●表紙:長瀬晋(ながせ すずむ)「ブルースロックピン芸人」。弾き語りとは思えない高度な楽器演奏と低音ボイスを駆使した弾き語りは一見の価値あり。ロック、ブルースを軸に様々なジャンルを混ぜたスタイルがギター雑誌、その他メディアで称賛される。オーストラリアのMATON「メイトン」ギター使用アーティストとしてサイトに掲載。ギターデュオ「ナガタク」で2枚のインストゥルメンタルアルバムを発表。2017年ソロミニアルバム「Guitar Vagabond EP」を発表し本格的にソロ活動も開始。現在演奏活動の他、元住吉の音楽教室ソウリーヴ・ミュージックスクール代表も務める。

Photo: Yoshiro Yasuda

元住吉の気軽な音楽会



音楽好きな友の会  
http://ontomo.jp/  
後援:「音楽のまち・かわさき」推進協議会  
公益財団法人 川崎市国際交流協会  
人形劇団ひとみ座 / rk-factory

### 連載03 音楽の旅は続く

#### 私の持ち味って何?

私の高校時代は日本が高度経済成長の真っ只中で、故郷の八幡は北九州工業地帯と呼ばれていたへん活がありました。とはいえ海外旅行に行ったり、チャンネルやエルメス持ってる人なんて稀で、一様に昭和の懐かしい生活でした。ただ音楽シーンだけは早熟で、コンサートと聞けば大人も子供もこぞ出て出かけて行きました。タダ券をもらってアートプレイキー(ジャズの大御所ドラマー)を聴いたのもこの頃ですが、残念ながら当時の私はジャズにはまったく興味が無く、延々と続くわけのわからない演奏が退屈でした。でも、そのインパクトだけは今でも忘れられないな。ジャズ?…おっ!今回は12月号!ちょっと脱線しますがクリスマスならジャズシンガーのNat King Coleの名唱「The Christmas Song」をぜひ聴いてみてください。美しいメロディと古き良きアメリカの暖かい家庭を描いた心温まる歌です。

さて話を戻しましょう、シンガーソングライターだった頃の私は井上陽水さん(アンドレカンドレ)がトリをやったコンサートや、大物さんの前座で唄ったりしていました。ある時、アリスの前座をやった後、そのま

ま舞台袖でステージを見ました。谷村さんの歌やお喋りは本当に素晴しかった!凄く勉強になった。しかし帰る道すがら今日1番好きだった曲は何かになって考えてみたら、谷村さんでも堀内孝雄でもなく、もう一人のアリス矢沢透、さんちゃんのバラードだったのです。ぜんぜんヒットした曲じゃないし、お喋りも今一つ。のきんちゃんが好きって自分ですごく不思議でした。実は、それが自分の事を考える第一歩になりました。さんちゃんだけが持っている独特の持ち味が好きだったのです。では、私の持ち味って何?それからは自分の持ち味探しのために「喋り」の台本を書いては失敗の連続。そして喋りは諦めた。ウケ狙いの曲も書いたけど、まったくウケないのでやめた。そのうち何だか混乱しちゃって、結局私は自然体でいるしかなかった。一人一人に必ず持ち味がある...でも無理しちゃダメ、いつか私にもきつと解る時が来るさ~と呑気に構えることにした。その頃、九州のテレビ局から私をメインに週1の番組を制作すると連絡がきたので、もちろん!お願いしまーす!嬉しかったな。第1回目の収録、緊張で何も覚えてないけど、土曜日の17

#### ジャズボーカリスト 星乃けい



2005年12月14日、ジャズシンガーとして待望のリーダーアルバム「NEARNESS OF YOU/星乃けい」、2006年12月20日「IN A SENTIMENTAL MOOD/星乃けい」をリリース。ジャズファン、ジャズメン、オーディオファンから高く評価支持される

時のゴールデンタイムにオンエアされました。しかし残念ながらこの1回で私は辞めることになりました。学校の先生が番組を観てたからです。私が通うのは私立の女子校で厳格な校則がありました。ジーンズはダメ、長い髪は三つ編み、ましてやギター抱えてテレビで唄うシンガーソングライターなんて言語道断だったのです。「人前で歌う時はキチンと制服を着て讚美歌を唄いなさい」とお喋りをうけました。そういう学校を選んで入学したので、ごもつとも、楽しかった九州でのコンサート生活はこれでおしまいとなりました。わかってます、高校を中退するなんてもってのほかでしたから。でも心がね、悶々とした日々でした。でもその悶々も直ぐに晴れる時がやってきます。第8回ポップコン出場のお誘いがヤマハ九州支店から来たのです。わーい!応募したい。懲りない私です。(つづく)

2020年4月11日(土)

## 第2回 元住吉ミュージック・フェスティバル

### いよいよ12月末が応募の〆切です!

出演者とはとより、一緒に音楽祭の運営をお手伝いしていただける

ボランティア・スタッフを募集しています。音楽好きな年齢も問いません。



「音友会」の活動拠点は「音友ハウス」です。  
元住吉駅 西口徒歩1分、  
フルーツショップ「フルッコ」2F。  
中原区木月1-35-1 フルッコビル2F  
●レコード倶楽部、コンサートの問い合わせ  
※「非通知設定」には対応不可。 [ontomo.jp](http://ontomo.jp) 検索  
**090-9398-2889** (担当: 塚田)

できる仕事をお手伝いください。

- ・チラシの配布
- ・当日の受付
- ・当日のスタッフと出演者の連絡
- ・当日のスタッフのアシスト などなど...



音楽好きな友の会  
<http://ontomo.jp/>

### 川崎市生涯学習プラザ 1階ロビー

#### 第83回 ランチタイム・ロビーコンサート

どなたでも気軽に音楽を楽しめるアットホームなコンサート

日時: 12月24日(火)  
12:00開場 / 12:10開演 / 12:40終演予定

料金: 無料 [内容] 古渡智江先生によるコンサートと、生涯学習プラザの歌の教室受講生による合唱です。クリスマス気分をお楽しみください。  
[出演] 古渡智江先生と「楽しく歌の教室」の皆さん



●お問い合わせ (公財)川崎市生涯学習財団 総務室企画情報係 ロビーコンサート担当 TEL 044-733-5811 E-mail: concert@kpal.or.jp 川崎市中原区今井南町28-41

【曲目】  
・クリスマスソング・メドレー  
・今日の日をさようなら  
・世界は二人のために  
・てんとう虫のサンバ  
・気球に乗ってどこまでも  
・第九より 喜びの歌 他

## 出演者募集。いよいよ、〆切迫る。

## 第2回 元住吉ミュージック・フェスティバル

### ★募集〆切:2019年12月31日(火)

#### 募集要項

- ①参加対象: 国籍・プロ・アマチュア不問。ジャンル不問。ただし和太鼓・大音量のドラム(ヘビーメタルやハードロックなど)はホールの環境上不可。2020年4月10日(金)のリハーサルに参加可能な方。
  - ②演奏時間: 25分(転換別)
  - ③参加費: 1名につき1000円。グループ・団体の場合も1名1000円です。(参加費は2020年初旬に行う参加者説明会で支払い願います。参加費の返金は出来ません。また、その他の参加に関する諸費用交通費、運搬費、食事などは各参加者の負担となります。)
  - ④応募方法: 郵送またはメールで両者とも、氏名、団体名、電話、住所などと演奏内容がわかる音源(MP3やYouTubeなどのリンクでも構いません)と、プロフィール、活動内容、Webサイト、SNSのリンクがあれば記入のうえ下記郵送先、またはメールはmottonclub.comのTOPフォームより応募してください。
  - 郵送先: 〒211-0025 川崎市中原区木月1-32-303 RK-F MOTTON CLUB内 元住吉ミュージックフェスティバル実行委員会事務局
  - 一般お問合せ: [info@mottonclub.com](mailto:info@mottonclub.com)
  - ⑤参加者決定: 実行委員会で選考の上、応募者多数の場合は抽選により決定。2020年1月31日(金)までに通知致します。
- ※未成年の方は、夜遅い時間の活動を制限させていただきます。また、保護者の同意が必要となります。  
※個人情報等は当実行委員会にて厳重に管理し、主催する音楽好きな友の会/MottonClub開催の事業活動以外の目的には一切使用しません。

### 島倉 学ミュージックスクール

島倉 学ミュージックスクール  
プロ志望専門ヴォイス・トレーニング  
**30分無料体験レッスン実施中!**  
【レッスンスタジオ】元住吉駅西口 徒歩5分  
島倉音楽スタジオ  
〒211-0025 神奈川県川崎市中原区木月3-35-1 ART FLATS B1F(106号)  
【お問い合わせ】  
島倉音楽事務所 営業日: 火曜~土曜 12:00~21:00  
代表 島倉 学 定休日: 日曜・月曜  
TEL 044-567-5940 Mail: [info@ms-musicschool.com](mailto:info@ms-musicschool.com)  
HP: <http://www.ms-musicschool.com/>

# 連載39 私とジャズ

## 松波陽介

### ポップカルチャーとサブカルチャー

最近、というわけではないですが「サブカル」みたいな形で表現されているサブカルチャーですが、言葉の意味的に何かおかしくないか?ということに気づいたのです。細かいことと言われればそれはそれまでですが、「サブ」ということは「メイン」があって初めて成り立つものであって、あくまで「メイン」の「サブ」ではないかと考えます。カルチャー、いわば文化、いや最近ではもはやあらゆるものを「カルチャー」と呼んでしまうような、何だかサブカル的な世の中になってきているような気がしますが(自分が初めてルソボ、という言葉を知ったのは中学校の教科書で「アメリカ人は人種のルソボだ!」みたいな書き方してあって、幼心にこの表現でギリアウトなんじゃないか?みたいな事を考えていました。(笑))いろんなジャンルでもそうだしジャズ(今回は日本のジャズ限定)でもそんな差別化がありましたね、いわゆるアンダーグラウンドと言われるような、中央線沿線のジャズ喫茶が発信地となって繁栄していったようなもの。自分のイメージでは、アンダー

グラウンドと言ったら少し怖いような、何だか夜みないな、地下のような(翻訳しただけ(笑))何となく暗くて湿っぽいイメージです。そうしたら、今話題にしているサブカルってそんなイメージあるか、っていうと何となくそんな感じじゃないんですよ。なんかもっと違う意味で暗くて(というのは排他的、という事)すごく輪が狭くて、みたいな感じです。要するに、言葉に騙されすぎるな!という事を考えていたところ。<ジョーカー>映画ってポップカルチャーなんだか、サブカルチャーなんだかわからないところなのですが、最近話題の「ジョーカー」を観てきました。何という非常に暗い、後味もあまりよろしくないけれど、色々と考えさせられるような映画でした。内容、所感としては様々な媒体で見ることではできるところでここでは音楽について。(音楽誌なので)舞台設定は1981年で、何となく世の中も明るいような雰囲気描かれていました。今回の映画のメインテーマ的なものにチャールズ・チャップリンの作品で「Smile」が取り上げられ

ている。他にもフランク・シナトラやジミー・デュランテ、エッタ・ジェームスなどの楽曲が使われていて、俗にいう「古き良き時代」感を醸し出している。がしかし、ここまで肉肉めいた感じではこれらの曲を使うのは…何というか衝撃的というべきか、そのような戦略というか。ご興味がある方、または私の駄文で興味を持ってしまった、というかた、ぜひ劇場に足を運んでみられては、と思います。ちなみにもっと書こうと思っていたことは、この「ジョーカー」という映画はもしかしたら日本人には、本当の意味ではあまり響かないのではないかと…?ということでした。そのお話はまた次回、機会があればということ。



# 連載36 4ビートに首ったけ 長谷部 徹

## ブルーノート、80年の歴史を振り返って



▲①SOMETHIN' ELSE/ Cannonball Adderley

「ブルーノート・レコードだけは特別だ!」ハードバップ好きなら必ずそう信じているのですが、皆さんもそう思いますよね?もともと偏見に満ちたコラムですので、まあ、今回はそう言うことで話を進めさせていただきます(笑)。先日、例によってシニア割で「ブルーノート・レコードジャズを超えて」と言う映画を観てきました。生誕80周年を記念して作られたそうです。ブルーノート・レコードは1950年代のハードバップだけではなく、今でも創設者アルフレッド・ライオンの意思を引き継ぎ、日々、進化し続けて新しい音楽を生み出しているのを知り、とても嬉しく思いました。

50年代のブルーノートは、「これは!」と言うミュージシャンを見つくと、売り上げなどは二の次にして、余計な口出しはせず、そのミュージシャンの主体性に任せ、好きなように演奏させたそうです。そのような中からセロニアス・モンク、バド・パウエルなどが世に出てきました。また、リハーサルにも報酬を出したらしい。まだまだ黒人達の立場が厳しい時代に、とても異例な事だったのではないのでしょうか?ナチス・ドイツを逃れて移住してきたユダヤ人であるアルフレッド・ライオンと、激しい

差別に苦しんでいたアフリカ系アメリカ人のアーティスト達との間に強い結びつきがあったのかもしれない。

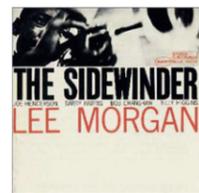
結局、ライオンは1966年に会社を大手のリパティに譲り、翌年には表舞台から去ってしまうのですが、彼の志は受け継がれ、今日まで80年間生き続けている。素晴らしいですね。今回はそんな中から各時代で話題になった3枚をご紹介します。

まず1枚目は、1958年3月録音、キャンボール・アダレー「SOMETHIN' ELSE」(写真①)。事実上、マイルス・デイヴィスのアルバムと言われているだけあって、1曲目「Autumn Leaves」でのミュート・ブレイは悲しく、儚く、綺麗ですね。とは言え、キャンボール・アダレー(as)のソロも負けてはいない。アルトの音は綺麗だし、イマジネーションに満ち溢れている大好きです。2曲目「Love For Sale」はラテン調のリズムでアート・ブレイキー(ds)が楽しげです。後半も魅力的な演奏が続くのでお勧めですが、超名盤なので、わざわざ私が勧めるまでもないですよ(笑)。

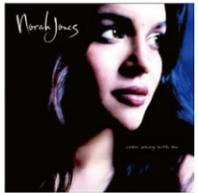
2枚目は1960年代の大ヒットアルバム、リー・モーガン「ザ・サイドワインダー」(写真②)。ハードバップ全盛の50年代の空気も薄れ、新主流派かつモードジャズとかジャズが変わりつつある時に生まれたスタイルのひとつがこれ、「ジャズ・ロック」です。ただ、この大ヒットの影響で会社が経営危機を迎えてしまうんですね。弱小企業がヒット商品を生むと財力が追い付かなくなるのは今も昔も同じようです。皮肉なものです。タイトル曲は8ビートで、今聴いても超カッコ良い。熱く燃え上がる事無く、最後まで同じリズムパターンをクールにクールにキープしているところが

お気に入りです。一時中断されていた活動を再開したのは1984年。それからのブルーノートはヒップホップからナチュラリズムまで、ジャズを中心に据えながらも幅と奥行きをもったレーベルへと発展し今に至っています。3枚目は2000年代を迎え、大ヒットしたアルバム、ノラ・ジョーンズの「CAME AWAY WITH ME」(写真③)。例えばアデルが圧倒的な歌唱力と存在感で、聴く者を自分の世界に引き込むのとは対照的に、ノラ・ジョーンズはふと気づいたら、傍に寄り添ってくれていたような、親密で控えめなボーカルです。おすすめはもちろん1曲目「Don't Know Why」。この歌を録音したのは彼女がわずか22歳の時です。驚きですね。ある種の人は経験を積んで何かを手に入れるのではなく、それを持って生まれてくるのです。彼女の穏やかな歌声を聴いているとつくづくそう思いました。

たった1500文字でブルーノートの魅力と歴史をお伝えするのは難しい(汗)。最後に新社長トニー・ウォズの言葉をご紹介します。『彼らの野心的なビジョンを追求する自由を保証すること。そして彼らの邪魔をしないようにすることが大切なんだ。』。そうそう、これがブルーノートですよ!



▲②The Sidewinder/Lee Morgan



▲③Come Away With Me/Norah Jones

## 音友レコード倶楽部Report

Light Music & Jazz Date

### 2019年 10月音友会の報告



音楽好きな友の会

#### Light Music

### AORの名盤「Bish」はトータルサウンドが魅力

元住吉駅のオズ商店街とプレーメン商店街では秋のお祭りシーズン真っただ中、お雛子の賑わいで沢山の人が繰り出していました。そんな中、本日のDJタイムはAOR名盤の1枚に挙げられているステファン・ビショップの2枚目「Bish」(写真①)のレコードを全曲聴きました。自らのプロデュースで自分の愛称(Bish)をタイトルにしたこのアルバムはデイヴィッド・フォスター、マーティ・ペイチを始め多くのビッグ・アーティストが参加しています。ステファン・ビショップは女性ボーカルのリア・カンケル(ジェームス・テイラーのバック・バンドに参加の名ドラマー、ラス・カンケルの奥様)の紹介でアート・ガーファンクルに楽曲を提供しその後彼のツアーに参加してアルバムデビューに至ったそうです。1曲目の「If I Only Had A Brain」(ミュージカル「オズの魔法使い」の挿入歌でここではレイ・ブラウン

がベースで参加)、5曲目の「Guitar Interlude」、8曲目前半の「Prelude」などのインスト曲がステファン・ビショップのソフトなボーカル曲の合間合間に散りばめられており、まさに映画の劇中音楽の様なトータルサウンドとなっています。特に印象に残った曲は4曲目のアップ・テンポな曲で「Everybody Needs Love」でこの曲はシングル・ヒットし、全米32位まで上がった様です。また、アルバム・ジャケットも映画のパンフレットの様な素敵なデザインとなっており、ジャケットに写っている美しい女性は「サラ」というモデルで、ステファン自身が40人の中から選んだそうです。持ち寄りタイムではゆったりした持ち味のサクソ奏者ベン・ウエプスターの「Big Ben Time」(写真②)よりデューク・エリントンの名曲「Solitude」、英国のジョージ・メラクリーノ率いるザ・メラクリーノ・ストリングスの「More Music

For Relaxation」(写真③)より「Mam'selle」、デンマークの美人女性歌手 シーネ・エイの「Remembering You」(写真④)より「Talking To Myself」、メグ・ファミリーのかとうあすかによるピアノ・トリオ「Sunday Morning」(写真⑤)より ミッシェル・ポルナレフの名曲「Love Me, Please Love Me」、懐かしい所で井上堯之バンドが演奏しているTVドラマ「太陽にほえろ!」サントラ盤「ベスト」より「メインテーマ/青春のテーマ」などを鑑賞。またジャズの長老がスキップ・マーティンOrch.を、最後に音友会代表が持参したレコードの選曲を40年間多種多様に聴いていると言う参加者の方にお願しアンドレ・コステラネツ、デビッド・キャロルなどのムード音楽(現、イージー・リスニングなどの呼称)レコードの中からリクエストをして貰うというハプニングもあり、大変楽しい一日を過ごさせてもらいました。(フレドリック・ジョーンズ記)



▲①Bish/ Stephen Bishop



▲②Big Ben Time/ Ben Webster



▲③More Music For Relaxation/The Melachrino Strings And Orchestra



▲④Remembering You/ Sinne Eeg



▲⑤Sunday Morning/ かとあすか

### 12月の「軽音楽」ファンの集い

## 12月1日(日) 13:30~

### 音友ハウス



クリスマスの今月は、クリスマスに関わりのある曲を参加者中心に、イブの想い出の曲、ホワイトクリスマスで聴いた曲、皆に聴いてもらいたいクリスマス・ソングなど普段あまり聞かれない曲たちを持ち寄り「ゆっくり、じっくり鑑賞」です。

#### Jazz Date

### クインシー・ジョーンズは1人3役?

今夜はラグビー・ワールド・カップ日本戦(因縁の相手強豪南アフリカ)があるので心もそぞろながらのJazz Dateでしたが多数が参加されました。今回の特集は軽音楽も含め、今後3回に分けて特集を組むクインシー・ジョーンズの第1回目です。今日は彼が初めて自己編成したビッグ・バンドを中心に主なアルバム6枚(「私の考えるジャズ」~「ザ・クインテッセンス」(写真①)よりピックアップして聴いていただきました。元々彼はトランペッターを目指し、当時、カウント・ペシー楽団にいた大御所であるクラーク・テリーに師事したとの事です。ライオネル・ハンブトン楽団、デジー・ガレスピー楽団に在籍し、次第に才覚を現し、アレンジ者、音楽監督の役目をも任される様になりました。また、大変人柄が良かった為、常に周りに彼は慕う多くのミュージシヤ

ンが集り、彼も彼で適材適所に役目を与えていた様です。古くはトランペッター仲間のクリフォード・ブラウン、アート・ファーマー、亡くなるまで常に行動を共にしたテナー・サクソスのジェローム・リチャードソンやアルト・サクソスのフィル・ウッズなども音楽人生の中で長い付き合いでした。また、自己編成したクインシー・ジョーンズ楽団は当時の最も優れた人材が集り、カウント・ペシー楽団に匹敵するのではないかと思われ、ペシー自身も冗談で俺のバンドを潰さないでほしいと言っていたぐらいです。続いて持ち寄りタイムではクインシー・ジョーンズ関連の曲が2曲紹介されました。1曲目はクインシーが昔アレンジ者として参加したカウント・ペシー楽団のアルバム「ワンモアタイム」中の「ジェシカズ・デイ(バースデー)」をマイク・ルドンが自己のセクス

テットで取り上げた演奏(写真②)、2曲目はクインシーが以前、在籍していたライオネル・ハンブトン楽団の朋友アート・ファーマー、ジジ・グライスの「When Farmer Met Gryce」(写真③)より「ソーシャル・コール」です。2曲共、大変聴きごたえのある演奏でした。また、年配の方々には最近ジャズ一辺倒ではなく、ジャンルにとらわれる事なくタンゴ、ラテン、カントリーなどにも関心がある様です。トリオ・ロス・パンチョスをバックにイーディ・ゴメがラテンの曲を歌う「Conta En Espanol」(写真④)より「クワンド・ヴェルヴァ・ア・トゥラ」、ラ・ウルティマ・ノーチェ」、カントリーの大御所ウィリー・ネルソンの「Without A Song」(国内盤タイトル「枯葉」)(写真⑤)より「ハーバーライト」などを選曲していただき、心むむ時間を過ごさせていただきました。(フレドリック・ジョーンズ)



▲①The Quintessence/ Quincy Jones And His Orch.



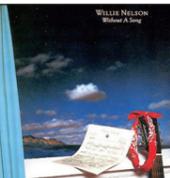
▲②Soulmates/ Mike LeDonne



▲③When Farmer Met Gryce/ Art Farmer & Gigi Gryce



▲④Sabor A Mi By Eydie Gormé



▲⑤Without A Song/ Willie Nelson

### 12月の「ジャズ」ファンの集い

## 12月15日(日) 13:30~

### 音友ハウス



12月・クリスマスのJazz Dateは3時間を参加の皆様レコード、CD持ち寄りです!ご自慢のコレクションから、お宝、思い出の曲、心を癒してくれる曲、私を虜にした1枚、そしてクリスマスソングなどお待ちしております。

## 連載39 「くじら座」日記 牧野 ぐみ

### レコーディング

新しいCDができました!!!お魚好き・水産系シンガーソングライターを名乗っている私牧野ぐみが今回のテーマに掲げたのは鮭。鮭にちなんだ楽曲ばかりを3曲収録した「あの川を目指して」が無事に完成しました。

CDってミュージシャンじゃないと作っちゃだめなのかな?レコーディングスタジオってミュージシャンじゃないと入っちゃいけないのかな?っていうささやかな疑問がずっとあって、今回はいつもお世話になっているメンバーはもろちゃんのこと、ファンの方や「全日本サロモン協会」というサロモン好きが集まる団体に協力を募り、コーラスやイラスト・写真提供で協力して頂き、みんなの力で完成した1枚です。これまで接点なかった世界をつなげたいという思いが漠然とずっとあったので、今回の作品で具現化してある

ことにしました。我ながら素晴らしいアイデアだと思ったのですが、たくさんの人が関われば関わる程まとめるのが大変で、納期がある上での責任と自分のキャパを痛感しました。好きなことややりがいのあることは高いモチベーションを維持できると自分で過信していたけれど、色々重なるとうまくいかないことがわかりました。ある意味自分と向き合えた期間であり、必要な経験だったのだと思います。

でもやっぱり人が集まったらそれなりに壮大なものができて楽しいな。懲りずにまたやりたいな。最新作「あの川を目指して」は各ライブでの販売の他音友ハウスにも置いてありますので、たくさんの方にお手に取って頂けると嬉しいです。



### あの川を目指して 牧野ぐみ

- ① あの川を目指して
  - ② サクラマスのワルツ
  - ③ No 鮭とば No Life
- Guitar: 榎本 崇 (track 1,3)  
Bass: 村山 宏行 (track 1,3)  
Drums: 馬場 貴也 (track 1,3)  
Arrange: 村山 宏行 (track 2)  
Illustration: 松尾 幸三  
photograph: 前田 和平, 柏崎 絵美子, 斎藤 淳一, きよら, スカイダー, わつき, 新井/バ, くさか けん, 陸一博, 榎本 崇, 村山 宏行, 馬場 貴也  
chorus: 神山 昇  
design: MOTTON CLUB,  
Special Thanks: SONIC BAND STUDIO

## MOTTON CLUB

地域の、全国のミュージシャンそして音楽活動に関わるあらゆる人をネットワークしたい。演奏の場を創り、ライブと楽曲の発信を積極的に活動していくことが目的です。元住吉から発信して行きます。アーティスト・メンバー募集中!!

https://mottonclub.com/



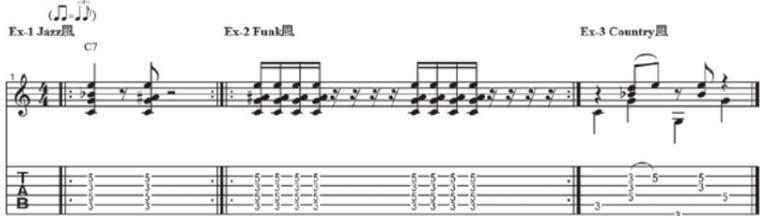
## Course Addicted to Guitar-19

### アドリブネタ(ブルース)その2

お世話になっております。今月もまたギターを始めたばかりの方にお勧めなギター小ネタをソウリーヴ・ミュージック・スクール永瀬がお送りいたします。今回は音楽における「ジャンル」分けについてギター目線で少し解説してみたいと思います。

一般的に「ジャンル」といいますと、ポップス、ロック、ジャズなど全く違う印象のある曲調を分類する為に使うことが多いと思いますが、この「ジャンルの違い」実際はメロディーは関係なく、伴奏のリズムだけだったりします。というわけで今回は「ジャンル」分けについてギター目線で少し解説してみたいと思います。

「ジャンル」つまり雰囲気にしてあります。リズムが変わるだけでかなり印象が変わりますね。こういうアイデアが「アレンジ」という手法に使われています。同じ曲なのに全然違う曲に聞こえる等、結構使えると思います。これを機会にぜひいろいろなリズムに挑戦してみてくださいませ。ではまた次回!



**ソウリーヴ・ミュージック・スクール**  
SouleaveMusic School  
http://souleave-music.com/  
元住吉駅徒歩3分・武蔵小杉駅徒歩13分  
チケット制 音楽教室 Tel. 044-750-8992  
AM8:00/PM22:00start